

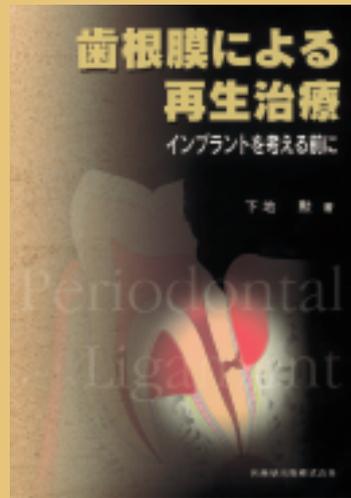
月星光博●

素晴らしいインプラント治療を行うことは大切であるが、その前に正しい適応症であるかどうかの診断が重要である。一見保存が困難な歯でも、さまざまな技術を駆使して歯の保存を行うことが可能な場合があるからである。

たとえば、深部齲蝕のケースで一見保存が難しいような歯でも、矯正の挺出や外科的挺出で生物学的幅径を再確立したあとに修復処置を行えば、長期間その歯の機能や審美を維持することができる。また、歯周炎により生じた垂直性骨欠損を治す最も確実な方法として、矯正の整直や挺出があるが、これらはすべて歯根膜を利用した骨の再生療法である。さらに、この歯根膜の歯周再生能を最大限利用した治療が自家歯牙移植である。

著者（下地氏）は、わが国における自家歯牙移植の草分け的存在であり、著書で紹介された長期症例の数々は、どんな科学的なエビデンスよりもその治療法の妥当性に対して説得力がある。

ところで、顎堤の垂直的成長は、主に歯の萌出により起こり、歯槽堤の幅と高さは歯の歯根膜によって維持されることは周知の事実である。したがって、歯の喪失は顎堤の吸収を招き、歯を失った顎堤の最終的な形態は、遺伝的骨格形態と後天的外因（環境）に左右されることになる。このことは、遺伝的骨格形態を無視して、歯周病で歯根膜を失った歯の周囲に骨を再生できたとしても、歯根膜の再生を伴わなければ、最終的（将来的）にその骨は失われることになるかもしれないことを意味する。逆に、炎症のコントロールが十分なされれば、GTR、骨移植を含む歯周外科を用いなくても（スケーリングでも）遺伝的骨格形態の範囲までなら歯の周囲に骨を再生させることは可能であることを意味する。近年、上顎前歯部に植立されたフィクスチャーの唇側歯槽骨の吸収が危惧されているが、インプラント治療の行き過ぎや治療の限界、安易な抜歯への警鐘であろう。したがって、可能であれば天然歯の保存、言い換えれば歯根膜を生かした治療を第一優先に考えたい。



歯根膜による再生治療
インプラントを考える前に
下地 勲 著
A4判 216頁 定価14,700円（本体14,000円＋税5%）
医歯薬出版株式会社刊

目次

序文
Prologue：天然歯の保存にこだわる
1章 歯肉縁下カリエスと歯根破折への効果的な対応
2章 自家歯牙移植とインプラント
3章 歯髄と歯周組織の発生
4章 自家歯牙移植を中心とした歯周組織の治療メカニズム
5章 歯根膜の再生機能
6章 歯根膜の恒常性維持機能
7章 歯根膜の感覚機能

本書には、移植、再植、MTMから、エンド、ペリオに至るまで、天然歯を守るために必要な幾種類ものオプション、詳細な術式、長期経過観察結果、そしてその科学的背景がコンパクトにまとめられている。公平な臨床を目指す若き臨床家には、特に読んで欲しい一冊である。

（つきばしみつひろ 〒497-0050 愛知県海部郡蟹江町学戸6-8 月星歯科クリニック Tel：0567-95-6666）